

新島八重と大山捨松

JRの大磯駅を降り、坂を下って国道1号線に出て、小田原方面にしばらく歩いたところに、「新島襄（にいじまじょう） 終焉の地」の碑があります。いまではどこに岩場（大磯）があるのかわからなくなってしまった照ヶ崎海岸に向けて、国道1号線から下る道が分かれるあたりです。新島襄は今の同志社大学になる同志社英学校の創設者として知られますが、なぜ京都ではなく大磯で亡くなったのか？そのあたりの事情が掲示してあります。

新島襄の配偶者は、会津出身の旧姓山本八重（やまもとやえ）ですが、数年間にNHKの大河ドラマで綾瀬はるかさんを主演に「八重の桜」が放映されたので、知っている人もいます。綾瀬さん演じる八重が、会津若松城から鉄砲を撃つシーンが印象に残っています。私は大学時代に一度だけライフル射撃の授業を受けて、エアライフル銃を持ったことがあります。とても重くて、左ひじを腰骨にのせてライフル銃を安定させることを初めて知りました。

新島八重は夫とともに同志社英学校を盛り立てますが、新島襄の死後は同志社の活動とは少し距離をおいたということです。とはいえ、その意志の強い生き方は、大河ドラマでも随所に描かれていました。

さて、八重の故郷である会津藩は戊辰戦争（ぼしんせんそう）で新政府軍に敗れた結果、1869（明治2）年に下北半島の斗南（となみ）藩に移封されます。豊かな会津に比べて実質の石高は1万に満たないと言われたところで、旧会津藩士とその家族の苦難の営農生活が始まりました。（当時のことは、石光真人「ある明治人の記録」（中公新書）に詳しく書かれています。）私は数年前に八戸まで新幹線で行き、青い森鉄道を経由して、野辺地から下北半島を北上する大湊線に乗ったことがあります。陸奥湾から強い風の吹き付ける海岸と、線路をはさんでその反対側には険しい山地があり、この地の開拓はなかなか大変だと思いました。

この移住した会津藩士の家族の中に、山川さきという子どもがいました。彼女はその後箱館の宣教師に引き取られ、縁あって兄の山川健次郎とともに官費の海外留学生に選ばれて、津田梅子などとアメリカで勉強することになりました。留学前に母親から「お前のことは捨てたつもりで待つ（松）」と言われて、捨松という名に改名することになったそうです。

帰国後は女子の高等教育の振興などに取り組みますが、そこで大山巖（いわお）という軍人と出会い、結婚することになります。先妻を病気で亡くした大山は、もともと海外留学経験などもあったことから、彼女の洋風な振る舞いに一目ぼれしたようです。しかし、薩摩出身の大山巖は、戊辰戦争で会津若松城を包囲して大砲を打ち込む指揮官だった人物です。おそらく周囲からはいろいろな声があったことと思いますが、二人は鹿鳴館でめでたく結婚披露宴を開きました。大山はその後、陸軍元帥そして元老となる大出世をします。

歴史小説家の司馬遼太郎さんは、幕末から明治時代の人々を描く小説をたくさん書きました。「坂の上の雲」（文春文庫）という長編小説の「あとがき一」にはこんなことが書いてあります。

「このながい物語は、その日本史上類のない幸福な楽道家たちの物語である。」

「坂の上の雲」にメインで登場するわけではありませんが、新島八重も大山捨松も明治新政府側から見れば賊軍の子孫なわけで、生活の苦しい時期もたくさんあったと思います。そんな中を、おそらくは楽天的に、そしてたくましく生き抜いたのです。受験生頑張れ！